

・本ケースはケースワークによる学習を目的としたものであり、学習効果を高めるために事実とは異なる点があります。  
・本ケースは上記目的以外の使用は一切できません。  
・本資料はいかなる媒体へのコピーもこれを禁止します。  
・他資料へ引用・転載は一切できません。

## ケーススタディ:「モノづくり」のデンソー

### 部品工場デンソーの誕生

1949年トヨタ自動車の電装部品工場が分離独立し、資本金1500万円で日本電装株式会社が誕生した。1951年には早くも名古屋証券取引所に上場し、1953年には東京、大阪の両証券取引所にも上場した。約4500億円の資金を証券市場より調達し、刈谷、安城、西尾などに次々と工場を設立した。株式はトヨタ自動車および豊田自動織機で30%を保有しており、トヨタグループ企業といえる。しかしその部品供給はトヨタグループを越え、世界中をその市場としている。

1953年に当時世界最高峰であったドイツのロバートボッシュ社と電装品に関する技術提携契約を結ぶ。1961年には品質管理のノーベル賞ともいえるデミング賞を受賞し、その品質の高さを証明した。

1971年にアメリカ・ロスアンゼルス、1972年にはタイ、オーストラリア、カナダ、1973年にはオランダに進出しており、まさに世界の部品工場とよばれるようになる。そして1996年に社名をデンソーと変えた。

従業員は連結で約95,500人、11の国内工場の他、デンソー基礎研究所を持ち、連結子会社数は164を数える。

事業内容は、自動車部品としてパワトレイン機器(エンジン関連)、電気機器、電子機器、熱機器、ITS(Intelligent Transport System:カーナビ、ETCなど)小型モーターなどを取り扱い、その他グループ会社のデンソーウェーブが産業機器(バーコードリーダー、ICカードリーダー、ロボット)を扱っている。そして世界のトップシェアを占める部品は点火コイルなど16に及び、デンソーの電子部品を使わない自動車メーカーは皆無といえる。

### デンソーの企業理念

デンソーは自社のホームページ上で企業理念、ビジョン、社長メッセージを以下のように公開している。

・本ケースはケースワークによる学習を目的としたものであり、学習効果を高めるために事実とは異なる点があります。  
・本ケースは上記目的以外の使用は一切できません。  
・本資料はいかなる媒体へのコピーもこれを禁止します。  
・他資料へ引用・転載は一切できません。

## 中 略

デンソーは技能五輪に力を入れている。技能五輪全国大会は、青年技能者の技能レベルの日本一を競う技能競技大会である。その目的は次代を担う青年技能者に努力目標を与えるとともに、大会開催地域の若年者に優れた技能を身近にふれる機会を提供するなど、技能の重要性、必要性をアピールし、技能尊重機運の醸成を図ることにおかれている。

技能五輪による国際大会もあり、2年に1度開催されている。技能五輪全国大会はこの国際大会の選考も兼ねている。デンソーはこれまで技能五輪国内大会での金メダルが約100個、国際大会での金メダルも約20個ある。国内大会では常に全メーカーでトップの成績を誇る。

### 課 題

課題 1. デンソーはなぜ技能学校を作ったのだろうか？